



しらさぎ

求めて学ぶ 考えて行う 自ら鍛える

目黒区立第八中学校
学校だより NO.18
(通巻177号)
平成30年(2018)
12月14日(金)

『第九交響曲 日本初演100周年』

校長 飯野 博史

今からちょうど100年前のこと、ベートーベンの交響曲第九番「合唱付」という曲が日本で初めて全曲演奏されました。1918年、大正7年6月1日のことでした。調べてみると、徳島県鳴門市坂東にある坂東俘虜収容所というところで初演されたという記録が残っています。なぜ徳島県鳴門市なのか、俘虜収容所とはどんなところだったのか、第九を愛好する者として当時の様子を知りたくなり、今年の2月に「鳴門市第九初演の地」を訪ねてみました。JR鳴門駅からさらバスに乗る、山奥にありました。

今から100数年前のこと、第一次世界大戦がありました。日本も参戦し、アジア進出を狙って中国のチンタオというところに要塞を築いていたドイツ軍を攻撃しました。ドイツ兵五千人に対し、日本軍は三万人という圧倒的な攻撃で、たちまちのうちチンタオのドイツ軍を降伏させました。日本軍はドイツ兵約四千五百人を、捕虜として日本各地の収容所へ送り込みました。そのうちの約千人が3年間、鳴門市の坂東俘虜収容所で過ごすことになりました。当時、国際法により、捕虜を「人事を尽くした後に降伏した英雄」とする欧米の国々に対し、日本は「死を恐れる卑怯者」と考え、食べ物を十分に与えない、衛生状態のよくない暗い部屋にたくさんの捕虜を詰め込むなど、どの収容所も人権を無視したひどい扱いをしていたそうです。そんな中であって、この坂東俘虜収容所だけは、捕虜となった人たちの自主性を重んじ、人権を尊重していました。

捕虜となったドイツ兵の中には、パンやお菓子を焼く職人、サッカーやテニスの選手、石工や大工、酪農など様々な技術をもった人たちがたくさんいました。ドイツ兵と地元の人たちと交流させ、西洋文化を地域に取り入れるという、当時としては極めて異例なことがこの坂東俘虜収容所で行われました。学校に出向き、器械体操や植物学を教える人までいたそうです。収容所において、特に音楽は心を慰める重要なものでした。楽器演奏のできる捕虜たちが集まり楽団を作り、定期的に演奏会を開いて盛んに交流していました。

やがて戦争が終わり、ドイツ兵は解放され故国へ帰ることになりました。捕虜であっても人権を尊重して扱ってくれた所員の人たち、人種が違っていても温かく交流してくれた地元の人たちに3年間の感謝の気持ちを込めて、ドイツの人たちにとって特別な曲「第九」を演奏することになりました。

ベートーベンは最後のこの交響曲に、平和、人類愛、希望といった崇高な思いや願いを込めました。お互いの友好を確認しあうにふさわしい曲でした。演奏会が終わると、捕虜となったドイツ兵と坂東の人たちが手を取り合って、涙を流して別れを惜しんだ、という記録が残っています。まだまだ人権についての意識が低かった、今から100年も前の話ですが、捕虜となったドイツ兵を受け入れた鳴門市坂東の人たちの「思いやりの心」、人種を超えて西洋文化を惜しみなく伝えようとしたドイツ兵の「優しさ」に深く感動しました。第九交響曲日本初演にこのような歴史があったことを知り、第九がますます好きになりました。皆さんもこの年末、ぜひ聴いてみてください。(昨年度の卒業式辞の一部です)

■「第九」に願いを込めて

私事ですが、22日(日)上野・東京文化会館大ホールで行われる「第九演奏会」に合唱団の一員(テノール)として出演します。一年を振り返るとともに、来年も八中にとって明るく、輝かしい年になるよう願いを込めて歌ってきます。

◎生徒の活躍

・平成30年度 中学生「税についての作文・標語」

《作文の部》東京納税貯蓄組合総連合会会長賞 ○○○○さん 『芸術と税』

《標語の部》目黒税務署長賞 ○○○○さん

「正しく納めて 正しく使う その為に知ろう 税のこと」

・平成30年度 炎天寺一茶まつり全国小中学生俳句大会

入選 ○○○○さん

◎ みんなで考えよう 性教育⑧ 「性と人権を考える」

1 1月26日（月）、1学年で「いのちの授業～いのちの始まりから誕生へ～」、2学年で「いのちの授業～性と人権を考える～」を実施しました。どちらの授業も命の大切さや「性」についての正しい理解について考えさせるものでした。

とくに2学年の授業では生徒たちが直面し始めている、「性」についての悩みや不安、異性とのかかわりなど、助産師さんが分かりやすく話をしてくださいました。生徒たちの感想を紹介します。

- ・今回の授業を受けて、私は性に対するイメージが変わりました。今までは「恥ずかしい、隠すべきことだ」と思っていたけれど、今回の授業を受けてから、新しい生命が誕生するのに大切なものだというイメージになりました。自分の体を大切にすることが一番だという話を聞き、もっと大切にしていこうと思いました。（女子）
- ・今ここに自分がいることのありがたさや大変さなどが分かりました。これからは親にも感謝し、他の人にも感謝して生活していきたい。これから体と心、どちらも大人に近づいていきます。性についての正しい知識をもち、相手などを傷つけないようにしていきたいと思います。また、人とかかわっていく上で何事も言い合える関係をつくっていききたいです。一つ一つの言葉を選び、相手が言われてどう思うかなどをよく考えてコミュニケーションをとっていききたいです。この授業を受ける前までは「性」はいやらしい感じでしたが、生命誕生にかかわる大切なことだと気付かされました。（男子）
- ・男性と女性の体の違いや心の違いがあることを知り驚きました。体の違いはなんとなく分かりましたが、心の違いについては知りませんでした。お互いの気持ちを理解し合うことが大切なのだと思います。男性と女性という区別だけでなく、様々な「性」についても理解が必要だと感じました。「性感染症」は教科書で見たことがある言葉でしたが、自覚症状がなく感染力が強いと知り驚きました。今回の授業で成長に伴って必要なことをたくさん学べました。（女子）

◎ 1月の主な行事予定

7日（月） 冬季休業日終	21日（月） 学年朝礼、職場体験始（2年生）
8日（火） 全校朝礼、避難訓練 新時間割始	23日（水） 職員会議、都・推薦出願
10日（木） 専門委員会	25日（金） 碑小との音楽交流会（E組） 職場体験終、私・一般出願
11日（金） 中央委員会	26日（土）・27日（日） 都立高推薦入試
14日（月） 成人の日	29日（火） めぐろの子どもたち展見学 （E組）
15日（火） 生徒会朝礼、私・推薦出願	31日（木） 横浜校外学習（1年）
16日（水） 職員会議	
20日（日） めぐろの子どもたち展始	